



県庁通りをトランジットモールに

■1998年11月29日から4回、西川フリーマーケットと当時開催した西川トランジットモールは日本初のトランジットモールの試みだったのだ。その第五回目として、1999年11月28日(日)に県庁通り600mの区間で、バストランジットモール実験が実施されたことは、あまり知られていない。ビブレ前から西川を越えて農業会館前までの区間を、1車線に制限して、バスとタクシーだけを走らせ、空いた1車線分は歩行者天国として、舞台などを設けてコンサートなどを行った。

■県庁通りは一方通行になっているが、桃太郎大通りほど広くはないため、歩行者にとって親近感のある空間になっており、また発展する駅前通りと表町商店街をつなぐ機能を持っている。また途中には南北の親水空間としての西川緑道公園があり、一息つける空間となっている。この県庁通りを「ロマンチック通り」と名付けたのはトミヤの古市大蔵さんが、まさに岡山都心のおしゃれなストリートになる要素を持っている。ここをモール化して、将来は路面電車を通したトランジットモールにすれば、岡山一の繁華街になることは間違いない。まずはすぐに実現できるバストランジットモールにすれば、西川で毎月行われている音楽イベントやバルのお客も大きく増加する。

■トランジットモール実験は、岡山以後浜松、福井、京都、宇都宮、長野などでも実施され、沖縄・那覇の国際通りでは「トランジットマイル」として毎週日曜日に本格的に実施されている。欧米には路面電車と歩行者だけのトランジットモールが数百か所もあり、中心市街地復活の切り札となっているのだが、残念ながら日本の商店街関係者には認知度が低いようだ。公共交通で都市に出てきた人は、駐車料金を気にしないうえ、回遊先から駐車場に戻る必要もなく、お酒も気軽に飲めるので滞在時間が長くなる傾向にある。当然お金もたくさん落とすわけだ。

